

1. 岐阜大学留学生センターの業務：
留学生センター躍動のための新たな挑戦(2000年度)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堀内, 孝次 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/3375

1. 岐阜大学留学生センターの業務

～留学生センター躍動のための新たな挑戦へ～

留学生センター長 堀 内 孝 次

従来からの大学院入学前の予備教育に加えて、大学入学前の予備教育ともいえる新たな日韓共同理工系学部留学生事業が2000年10月に開講した。さらに2001年10月開講を目指した日本語・日本文化研修コースへの準備も進められ、現在既に実施されている。また、これまでの本学の特徴でもあるサマースクール（夏季節短期留学生受入事業）が今期も更なる充実が図られ、留学生センターの今後に向けた新たな展開への挑戦が着実に進行している。具体的に各1事業についての内容は以下の通りである。

サマースクール：前年度より準備していた日程とプログラムの内容は、スクール終了時毎に行っている反省会の結果に基づいて翌年5月に留学生センターで承認される。毎年、新しい内容の導入に留意しながら平成12年度のサマースクールの無事終了したことを報告したい。取り分け郡上八幡町でのスタディツアーは、茶道、書道、祭り等、日本事情・日本文化の体験授業以外にも、同町との心温まる国際交流が留学生達に強い印象となって残っていた。こうした地域社会と大学との連携の意義は今後の大学のあり方を示唆する良い事例と考えている。その成功の背景には関係者の大いなる努力は勿論のこと、継続的連携の重要さと実績があって、このことがやがて小さな歴史を作っていくことにつながるであろう。

日韓共同理工系学部留学生事業：本プロジェクトの目的は、「韓国における先端技術の更なる高度化の促進を図るため、前途有為な学生（高等学校卒業者）を我が国（日本）に招致し、最先端技術・知識を習得するとともに、留学生交流を通じた日韓間の相互理解の増進に寄与するため」である。第1次選考試験（書類審査、筆記試験）はソウルで実施され、地方自治体の教育長等からの推薦者397名の中、成績上位の150名が選出された。次いで第2次選考試験（面接による人物評価）により最終的に100名が選ばれた。彼らは韓国内での予備教育（慶熙大学で日本語、日本事情、数学、物理、化学の専門科目：3月～8月の6ヶ月間）を経て、平成12年10月から留学生センターのある日本の国立大学で受け入れられた。初年度、岐阜大学には1大学当たり最大受入人数枠の5名が配置された。彼らは120月からの6ヶ月間は留学生センターに所属し、翌34月まで予備教育を実施受けた。実は、私も本コースのカリキュラムの一コマに参加して、“環境に関わるセミナー”の授業をもった。もともと本プロジェクトへの参加を楽しみにしていたが、今、その期待は十分かなえられたと思っている。彼らの授業態度を通じてその熱意と習得能力の高さに極めて良い印象をもっており、予備教育とはいえ、深い洞察力と勉学意欲に授業にも一段と熱が入った。彼らは2001年4月から工学部へ入学することになっている。

さて、本センターでは新たな日本語・日本文化研修コースには、各国から日本語の上級クラスの学生達がやって来るため教官自身、授業内容の充実に向けて必死に授業の準備をしている。本コースの開講が今後の岐阜大学の留学生交流をさらに質的にも高めるものであると確信している。

本年度のその他の具体的な活動として特別講演会の開催なども実施したが、細部については巻末の活動一覧をご覧ください。

最後に、今年度も留学生センター業務が無事遂行できたが、この背景には、本センターと学生部留学生課との密接な連携が常に基礎にあることを改めてここに記しておく。